

学力検査における記述式問題について

思考力・判断力・表現力を測る

- 平成 23 年 10 月に神奈川県教育委員会が策定した「神奈川県公立高等学校入学者選抜制度改善方針」の中で改善の基本的な考え方が示され、学力の三要素である「基礎的・基本的な知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度（学習意欲）」を的確に把握するため、学力検査及び面接を実施することとし、学力検査については、これまで以上に「思考力、判断力、表現力等」を測る内容とすることとしている。
- 入学者選抜学力検査問題において、「思考力、判断力、表現力等」の能力を測ることを目的として記述式問題を出題する方向性は、他県でも同様に示されている。
- 記述式問題とすることにより、受検者が自ら考えたことを記述することから、主体的で論理的な思考力、判断力、表現力が発揮され、それを測り取ることができる。

実際の採点・点検作業

- 本県が実施している学力検査問題の記述式問題においては、一定の条件等のもとに記述するよう問題文において指示しているものの、受検者の実際の解答は、指定語句等を含み、求めている趣旨であると読み取れる文としては、様々なものがある。
そこで、県教育委員会は「採点上の注意」（採点基準）を定めた上で、問題における解答として求められる趣旨を踏まえた適切な正答例を示している。
- 各学校においては、県教育委員会が定めた「採点上の注意」（採点基準）に照らして、実際にどのような答案を正答、中間点、誤答とするか分類することで、校内における採点上の取扱いを整理した上で、採点・点検作業を行っている。
- 校内における採点上の取扱いの整理の仕方は、学校により異なり、ホワイトボードや模造紙に正答、中間点、誤答の分類に従い実際の受検者の記述を書き出して整理したり、答案に正答、中間点、誤答について記載した付箋を貼ることで整理するなど、各学校で工夫した方法により行っている。